聖書日課『からし種』2024.11.17－11.24

11月 17日 （日） エゼキエル 40章	**「人の子よ、自分の目で見、自分の耳で聞き、わたしがこれから示す、すべてのことを心に留めなさい」（4節）。**エゼキエルは主の霊により新しい神殿の幻を示される。主の民の「再構築」は、彼らが霊的な神殿として建て直されることを意味したからである。荒涼とした世界にあって主が示されるビジョンを大切に聴き取っていく信仰をいただいていきたい。
18日 （月） エゼキエル 41章	**「床から入り口の鴨居の上まで、神殿の壁にはケルビムとなつめやしが刻まれていた」（20節）。**エゼキエルは「拝殿」（聖所と至聖所）の幻を示される。ソロモンが造った至聖所は金で覆われていたが、新しい神殿の「拝殿」は板張りでなつめやし（平和）とケルビム（賛美）が刻まれていた。見せかけの豪華さではなく、平和と賛美のあふれる場こそ神礼拝にふさわしい。
19日 （火） エゼキエル 42章	**「外壁は全体を囲んでおり、その長さは五百アンマ、幅も五百アンマであった。それは、聖なるものを俗なるものから区別するためであった」（20節）**。神殿の外壁は五百アンマ（約260m）の正方形だった。広大な庭は神を賛美する人々が集う場所。私たちも俗なる生活の中に、隣人と共に神を礼拝する場所を広く設けるように招かれているのではないか。
20日 （水） エゼキエル 43章	**「人の子よ、あなたはイスラエルの家にこの神殿を示しなさい。それは彼らが自分の罪を恥じ、神殿のあるべき姿を測るためである」（10節）。**エゼキエルが幻で示された神殿は、イスラエルの人々が自らの罪ときちんと向き合い、異国の地にあって、一人ひとりが自分の暮らしの中に「ささやかな聖所」（11:16）を建てていくための励ましであったことを覚えたい。

メール配信登録メール　senfkorn.obc@gmail.com　　大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2024.11.17－11.24

21日 （木） エゼキエル 44章	**「彼ら（祭司たち）は嗣業を持たない。わたしが彼らの嗣業である」（28節）。**エゼキエルは「神殿を礼拝の場とする」祭司の大切な務めを主なる神から示される。「立派な神殿」が建てられれば「正しい礼拝」が成立するわけではない。「主なる神を自分の嗣業とする信仰」、つまり「日々の糧を神から受けていく信仰」が「神殿を神殿とし、礼拝を礼拝とする」のである。
22日 （金） エゼキエル 45章	**「あなたたちが、国を嗣業として割り当てるときは、土地の一部を聖なる献げ物として主にささげねばならない」（1節）。**捕囚から解放された民は新しい土地の割り当てに際して、それぞれの土地に聖所のための境内を設けるように命じられた。配分された土地はあくまでも主なる神ご自身のものであって、人々の欲望のまま自由にできないことを忘れないために。
23日 （土） エゼキエル 46章	**「あなたは、朝ごとに無傷の一歳の小羊一匹を、日ごとの焼き尽くす献げ物として、主にささげねばならない。朝ごとに…ささげねばならない」（13節）。**わずか数行に「朝ごとに」が六回繰り返されている。「朝ごとに」礼拝から始める。「昨日礼拝したから今朝はパス…」という怠け心満載の私たちには厳しい戒めかも…。しかしこの招きに神の恵みを生きる真理がある。
24日 （日） エゼキエル 47章	**「この土地を、あなたたち自身とあなたたちの間に滞在し、あなたたちの間で子をもうけるにいたった外国人に、くじで嗣業として割り当てねばならない」（22節）。**「実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ」（ルカ17：21）。国同士の紛争が絶えない世界では、国民同士にも緊張があろう。それでも主を信じて心を開き合うその場に、命の水は湧くのだろう。

大井バプテスト教会